

# イメージ図（考え方）

令和7年10月14日  
大東市総合計画・総合戦略審議会  
資料2

## 政策の視点

①定住促進

②まちの活力の維持・発展

③財政基盤の維持・発展

3つの政策の視点をもって  
8つの重点分野で取り組む

## 8つの重点分野（施策）

①危機管理の徹底

②エリア価値を高める都市整備と都市空間の創出

③健康寿命の延伸

④確かな学力の向上と教育環境の充実

⑤出産や子育ての安心と魅力の創出

⑥チャレンジする人と産業の後押し

⑦市民のシビックプライドの醸成

⑧行政サービス改革

## 特に重視する視点

①大東ならではの資源、人材、組織、仕組みを活かす

②大東の魅力や取組を積極的に発信し、大東への理解・共感と知名度を高める

8つの重点分野の取組の中でも特に次の2つの視点が盛り込まれるものを重点施策とする

## 重点施策の内容 ※別表管理

- ・地域の支え合いの強化を図る取組
- ・地域人材・団体・企業との連携や分野を横断した連携により、相乗効果が生まれる取組
- ・公共施設や公有地、空家等の資産を時代の変化に合わせて適正に管理・活用する取組
- ・大東の魅力を着実に伝えることのできる効果的なプロモーション

## 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

### （1）基本的な考え方

---

国においては、令和4（2022）年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定した。令和7（2025）年には、「地方創生2.0基本構想」を策定し、「人口減少を受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていく」ことを謳うとともに、そのために「地域の経済・社会、これらを支える人材の力を最大限に引き出す政策の強化」などが掲げられた。

本市の総合戦略においても、この考え方に即すとともに、総合計画に示すまちづくりの展開方針（政策の方向性）に基づき、豊かな生活を安心して営める地域社会の形成（まち）と、地域社会を担う多様な人材の育成・確保（ひと）、地域における魅力ある多様な就業・産業の維持・発展（しごと）を進めていく。

## (2) 基本目標と政策の視点

### 基本目標

安定した「行財政基盤」のもと、「安全・安心の土台」の上に「大東ならではの付加価値」を創出することで、まちの魅力や賑わいを生み出し、今住んでいる市民等が将来にわたって安心・幸せに暮らせる「定住のまち」をつくる。(総合計画より)

### 総合戦略における政策の視点

#### ①定住促進

災害対策や子育て支援、教育の充実、交通手段の確保など、定住意欲に直結する多角的な施策で、今住んでいる市民が「住み続けたい」と感じる住環境を整える。

#### ②まちの活力の維持・発展

地域活動の中心を担う自治会の支援や地域産業の支援、新たな企業の参入、観光と産業の掛け合わせなど、様々な人や企業が集まり連携し合うことで、まちの賑わいを創出できる環境を整える。

#### ③財政基盤の維持・発展

人口減少・少子高齢化が進展する中でも、安定した行政サービスを提供し続けられる財政基盤を整える。

## (3) 重点分野

---

大東が有する強みや弱みなどを踏まえつつ、大東ならではの資源を活用しながら、次の分野で取り組んでいく。

### 8つの重点分野

- ①危機管理の徹底
- ②エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出
- ③健康寿命の延伸
- ④確かな学力の向上と教育環境の充実
- ⑤出産や子育ての安心と魅力の創出
- ⑥チャレンジする人と産業の後押し
- ⑦シビックプライドの醸成と市外からの人の呼び込み【新】
- ⑧行政サービス改革

## (4) 重点施策

総合戦略における3つの政策の視点（①定住促進 ②まちの活力の維持・発展、③財政基盤の維持・発展）で基本目標を実現するために、特に優先して取り組む施策を「重点施策」として位置付ける。

### 重点施策の視点

#### ①大東ならではの資源、人材、組織、仕組みを活かす

人口減少期においては、新たなものを一から構築するのではなく、既存の資源や可能性を有している資源を有効に活用することで、より効率的・効果的に実現を図ることが重要である。

大東には、都市化が進んだ現在においても、地域コミュニティや住民間で互いに支え合う共助の仕組みが備わっており、安全・安心の暮らしを支えている。また、地域人材や関係団体との連携や参画によって、相乗効果を生み出しながら、多様なまちづくりを推進するとともに、切れ目のない子ども支援や創業・操業支援など、総合的な相談・支援体制の構築にも先進的に取り組んできた。

これら大東が培ったソフト的な素地は、引き続き、定住促進やまちの活力の維持・発展に欠かせない重要な要素となりうる。

また、現在、人口急増期に建設が進んだ公共施設や建物等の更新時期に差し掛かっており、ハード的にも人口減少時代に即したまちづくりに取り組むことができるチャンスの時期を迎えている。

これら大東が有する優位性や可能性を活かし、掛け合わせることで、定住を促進していく。

#### ②大東の魅力や取組を積極的に発信し、大東への理解・共感と知名度を高める

大東の人・歴史・文化・産業・仕組み・制度・暮らしやすさ・安全性など、大東が誇る魅力的な資源や取組は、市民や市外の方々に知っていただき、実際にその魅力を実感いただいでこそ、その価値が高まる。

そこで、施策を実施する際は、常に市内外に向けた「発信」とセットで行うことを基本とし、大東への理解・共感と知名度を高めていくことで、シビックプライドを醸成し、定住促進及び交流人口・関係人口の増加を図る。

### 重点施策

重点分野にかかる各取組の中から、上記の視点に即した以下の取組を重点施策として位置付ける。

- ・地域の支え合いの強化を図る取組
- ・地域人材・団体・企業との連携や分野を横断した連携により、相乗効果が生まれる取組
- ・公共施設や公有地、空家等の資産を時代の変化に合わせて適正に管理・活用する取組
- ・大東の魅力を着実に伝えることのできる効果的なプロモーション

## (5) 重点各分野の取組

### 1 危機管理の徹底

#### 大東の特徴と課題

<強み>

自治会や自主防災組織など、地域主体の活動の基盤が築かれている

<課題>

地震や土砂災害などの地勢的リスクを抱えている

軽犯罪発生件数が増加傾向にある

インフラや施設の老朽化が進んでいる

自治会等の地域主体の活動の担い手不足や高齢化が進んでいる

#### めざす「定住したいまち」の姿

- 日常から地域内で共助の体制が築かれており、防災・防犯力が高いまち
- インフラや施設の安全性が確保されているまち
- 市民が防災・防犯の取組や市の安全性について知っているまち

KGI	近所の人と助け合える関係性が築けていると答える人の割合の増加	
	軽犯罪件数の減少	
	公共施設の耐震化率	

#### 地域防災力・防犯力の向上（共助力のさらなる向上）

多様な主体との防災訓練の実施	
災害協定・受援体制の強化	
自治会運営支援の強化	
火災共済・交通災害共済等の助け合い制度の加入促進	

#### インフラや施設の老朽化対策

新庁舎の早期着手	
公共施設の再編と連動した計画的な老朽化対策	
空家の適正管理の推進	

#### 安全なまちであることを市民が知り、安心できる情報発信

大東の安全対策や防災体制など、まちの安全性を発信	
--------------------------	--

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

都市部へのアクセスが良い・市域がコンパクトで市内移動しやすい  
空家のうち流通可能な住宅が多い  
公共空間を活用した市民主体の取組が行われている  
大阪市内に隣接しているが、大阪市と比較して安価で住宅を購入できる

#### <課題>

交通不便地や急峻な坂、バリアフリー化未対応の道路など、快適な移動が難しい地域がある  
河川の浮遊ごみがまちの景観を阻害している  
賃貸用住宅が多く、分譲住宅が少ない  
未利用の公有地が残っている

### めざす「定住したいまち」の姿

- 子育て世代や高齢者をはじめすべての人が安全で快適に移動ができるまち
- 若い世代が大東市内で定住できる住宅が備わったまち
- 身近に賑わいや憩いの空間があるまち
- 市民の環境意識が高いまち
- 住み心地の良さを市民が実感しているまち

KGI	駅前空間の滞留人口の増加	
	買い物へのアクセス困難者の抑制	
	賃貸用空家数・未利用空家数の抑制	
	ふだんから環境にやさしいエコな生活を心がけていると答える人の割合の増加	

活力と持続性を高める都市空間の創出	
市民や関係者と連携した住道駅周辺のビジョンづくり	
市民や関係者と連携した野崎駅周辺のビジョンづくり	
未利用普通財産の早期方向性の決定の仕組みづくり	

<b>活力と持続性を高める都市空間の創出</b>	
公共施設等の廃止・再編・活用による総量の見直し	
<b>快適な移動環境と住環境の整備</b>	
地域の実情に応じた移動手段の整備	
道路のバリアフリー化	
定住につながる空家の流通促進	
市民・事業者の温室効果ガスの削減	
キレイで豊かな河川環境の整備	
<b>住み心地の良さを市民が実感できる情報発信</b>	
大東の利便性や暮らしやすさなど、まちの優位性を発信	

### 3

## 健康寿命の延伸

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

高齢化率が低いまちである

大東元気でまっせ体操の拠点が市域全体に広がっている

市民間で「支え、支えられる」生活サポーターの体制が構築されている

#### <課題>

後期高齢者数の急激な増加が予測されている

介護度の重症化が進んでいる

全国的に介護人材不足が予測されている

全国的に若い世代の健康意識が低い

### めざす「定住したいまち」の姿

- 年齢を重ねても活躍できる場所があり、心身ともに健康に過ごせるまち
- 健康維持に向けた取組が充実したまち
- すべての世代で市民の健康意識が高いまち

KGI	健康寿命の延伸	
	市民の健康意識の向上	

### 健康意識を喚起させる仕掛けづくり

多様な健康づくりコンテンツの展開

### 健康を支え合う人材確保

ボランティアや生活サポーターの拡大

学校における介護教育の推進

### 若いうちから健康意識を高める情報発信

市の健康に対する取り組みや健康づくりの重要性について発信

## 4

# 確かな学力の向上と教育環境の充実

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

平成21年より「教員の確かな関わりによる学び合う授業づくり」を実践している地域とともにある学校として地域人材の活用を推進している  
家庭教育への支援に早くから着手している

#### <課題>

子どもの学力は無解答率等緩やかに改善しているが全国比としては道半ばとも言える  
子どもの体力はコロナ禍以降、全国同様伸び悩んでいる  
不登校児童・生徒は全国的に増加傾向にある中、高止まりの状況であり、引き続き「学びへのアクセス100%」の追求が必要である  
学校施設の老朽化が進んでいる

### めざす「定住したい」まちの姿

- 子どもたちが楽しく学校に通うことのできるまち
- 生涯にわたって学び続ける力が身につき、心身ともに健やかに育つまち
- 子どもたちが将来の夢や希望を持てるまち
- 学校だけでなく、家庭や地域で子どもの育ちを支えるまち

KGI	「学校が楽しいと感じる」児童・生徒の割合の増加	
	学力調査におけるIRTバンド(1・2及び3・4)合計割合の向上	
	将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合の増加	
	課題の解決に向け自分から取り組んでいる児童・生徒の割合の増加	

### 学力の向上

教員の授業力の向上	
自己調整によるICTの効果的活用	
家庭学習習慣の定着	

### 家庭・地域と学校が強固に連携した学ぶ環境づくり

家庭での教育環境の向上	
地域とともに学校教育を取り巻く環境や、子どもたちの日常生活を支える仕組みの充実	

小中一貫教育の推進	
小・中学校の系統性・連続性を鑑みた連携・一貫の強化	
本市初の義務教育学校の創立に向けた準備・対応	

児童・生徒の心身の健康づくり	
地域人材を活用した地域部活動の展開	
すべての児童・生徒が学校や社会とつながりを持つ機会創出	

安全で適正な学校施設の整備	
学校規模の適正化と財政負担の平準化を見据えた老朽化対策	

子どもたちが大東に誇りを持ち、住み続けたいと思える郷土愛の醸成	
地域の人や大東の歴史・文化・資源に触れられる機会創出	
子どもたちがまちづくりに関わる機会創出	

## 5

## 出産や子育ての安心と魅力の創出

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

待機児童ゼロを堅持している

他市に比べ、結婚年齢が低く、第3子以上の出産割合が高い

#### <課題>

子育て世帯が相談できる人や自分時間が持てずに負担感が増大している

ひとり親や外国人の子育て世帯など、多様な家族形態への対応が求められる

### めざす「定住したい」まちの姿

- 子育てしながら、自己実現を図ることのできるまち
- 子育て世帯が相談できる場所や人が身近にあるまち
- 経済的に自立して子育てができるまち

KGI	子育て世代が相談できる人がいるとする人の割合の増加	
	若年者層＋子ども層の転出率の抑制	
子育て世帯の孤立化を防ぎ、子育てと自己実現の両立を図る環境づくり		
	ネウボランドだいたいの相談機能の強化	
	保護者の自分時間の創出支援	
	地域住民の子育て助け合い制度の充実	
子育て世帯の暮らしの質の向上		
	子育てサービスのデジタル化促進	
	空家を活用した子育て世帯の住宅取得促進	
子育て世帯の経済的自立の支援		
	市内企業の働き方改革や職場環境改善・就業形態多様化支援	
	子育て世代の就労支援	
「子育てするなら、大都市よりも大東市。」を市民が実感できる情報発信		
	子育てサービスを分かりやすく伝える情報発信	

## 6 チャレンジする人と産業の後押し

### 大東の特徴と課題

<強み>

製造業が集積している  
20年以上存続している事業所が多い  
創業件数が増加傾向にある

<課題>

施設や設備の老朽化が進んでいる  
事業所数が減少している  
事業を継続するための人材不足に不安を抱える企業が増加している  
女性の就業率が全国よりも低い

### めざす「定住したい」まちの姿

- 市内企業の事業承継や人材が確保されて操業し続けられるまち
- 新しい企業の参入や起業が増え、市内産業が元気なまち
- 若い人や女性が就業しやすいまち
- それぞれの価値観に応じたライフコースが描けるまち

KGI	市内事業所数の廃業・移転数の減少	
	市内事業所数の増加	
	市民（生産年齢人口）の就業率の増加	
	女性の就業率の増加	

市内企業の事業承継と留置支援の強化	
市内企業の働き方改革や職場環境改善・就業形態多様化に向けた支援	
魅力ある市内企業のPR	
市内企業の採用ブランディング支援	
未来人材の確保・市内企業への定着支援	

チャレンジしやすい環境づくり	
創業者コミュニティ形成支援	
子どもたちのキャリア教育の推進	

市外からの企業誘致	
企業誘致支援策の充実	
市外企業に向けた産業施策広報の強化	
市内企業の魅力を市民が知り、誇りに感じる情報発信	
市内企業の魅力やポテンシャルを積極的に発信	

## 7 シビックプライドの醸成と市外からの人の呼び込み

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

国史跡指定の飯盛城跡をはじめとして、市内に多数の歴史的資源がある  
市外からのアクセスが良く、市内もコンパクトであるため、移動・周遊しやすい  
地域コミュニティが主体となる活動が存続している（自治会、だんじりまつりなど）

#### <課題>

市外からの認知度だけでなく、市民にも大東市の取組や歴史的資源の認知度が低い  
地域活動の担い手が減少している

### めざす「定住したい」まちの姿

- 「このまちが好き」という市民が多いまち
- 市民も市外の人も、「大東」や「大東の魅力」を知っているまち
- 大東を訪れる人が増え、消費が生まれるまち
- 地域コミュニティを支える人がいるまち

KGI	大東に好意を感じる市民の割合の増加	
	大東に好意を感じる市外の人々の割合の増加	
	近隣市から日常的に大東市を訪れる人の割合の増加	
	市外転出者数の抑制	

### 歴史・文化と観光・産業を掛け合わせた人の呼び込みとシビックプライドの醸成

歴史的資源や魅力資源を巡る周遊コンテンツのPR	
地域産業と連携した観光プロモーションの強化	

### まちづくりへの参画によるシビックプライドの醸成

地域活動への参加促進（自治会・生活サポーター等）	
市政への市民の参加の推進	
子どもたちがまちづくりに関わる機会の創出（再掲）	

シティプロモーションと発信力の強化	
大東の文化や歴史資源等の魅力を発信	
大東の安全対策や防災体制など、まちの安全性を 発信（再掲）	
大東の利便性や暮らしやすさなど、まちの優位性 を発信（再掲）	
子育てサービスをわかりやすく伝える情報発信 （再掲）	
市内企業の魅力やポテンシャルを積極的に発信 （再掲）	

## 8 行政サービス改革

### 大東の特徴と課題

#### <強み>

全国から多くのふるさと納税をいただいている  
行政手続きのデジタル化が進められている  
公民連携に先駆的に取り組んでいる

#### <課題>

財政が硬直化しており、投資的資源の余地が少ない  
人口減少に伴い、税収が減少する可能性がある  
人口増加期の公共施設総量を維持している  
高齢化社会の進展に伴い、デジタルデバイド対策が求められている  
職員の確保が難しい

### めざす「定住したい」まちの姿

- 財源が確保されて財政が安定しているまち
- きめ細やかな 市民サービスが受けられるまち
- 市の施策を多くの人が知り、行政が信頼されているまち

KGI	将来負担比率の「なし」の維持	
	大東市に満足している人の割合の増加	
	行政情報が得やすいと感じる人の割合の増加	

### 財源確保と歳出削減、資源の最適化

交付金等の積極的な獲得と事業の不断の見直し	
既存公共施設等の総量削減（廃止・再編）、利活用の促進	
未利用普通財産の早期方向性の決定の仕組みづくり	
デジタル化・DXの推進による業務効率化の推進	
基金の有効活用	

質の高い行政サービスの提供	
提案しやすい民間提案制度の充実	
職員の人材確保の推進	
職員の個々のライフコースに応じたキャリア形成と人材育成	
政策間連携の推進	
市民に親しみやすく便利な庁舎づくり	
デジタル化・DXの推進による市民の利便性向上 ときめ細やかな行政サービスの推進	
職員の情報発信力の強化	
各課の取組の積極的な情報発信	

## (6) 検証及び見直しについて

---

毎年度、取組の進捗状況やKPIの達成状況を内部で検証するとともに、検証結果を外部有識者や市議会議員、市民等を含む大東市総合計画・総合戦略審議会に報告し、意見聴取を行う。

また、総合戦略にかかる取組のうち、重点施策に紐づく取組については、毎年度対象となる事業を選定するとともに、重点的に進捗管理を行っていく。

あわせて、市民を対象とした意識調査を定期的を実施し、市政全般に対する市民意識の傾向を把握する。

これらの検証結果を踏まえ、各取組や予算への反映を行うとともに、必要に応じて総合戦略の見直しを図る。